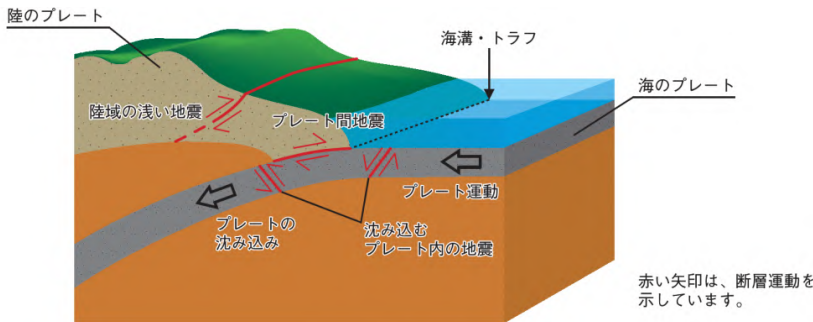


# 陸域の浅い地震への備え

2016.7 松江地方気象台

## 陸域の浅い地震とは



日本列島の太平洋側の日本海溝や南海トラフなどでは、海のプレートが陸のプレートの下に沈み込み、陸のプレートが常に内陸側に引きずり込まれています。

この状態が進行し、蓄えられたひずみがある限界を超えると、海のプレートと陸のプレートとの間で断層運動が生じて、陸側のプレートが急激に跳ね上がり、地震が発生します。これをプレート間地震といいます。

1. 岩盤に力が加わる

2. 岩盤にひずみが蓄積する

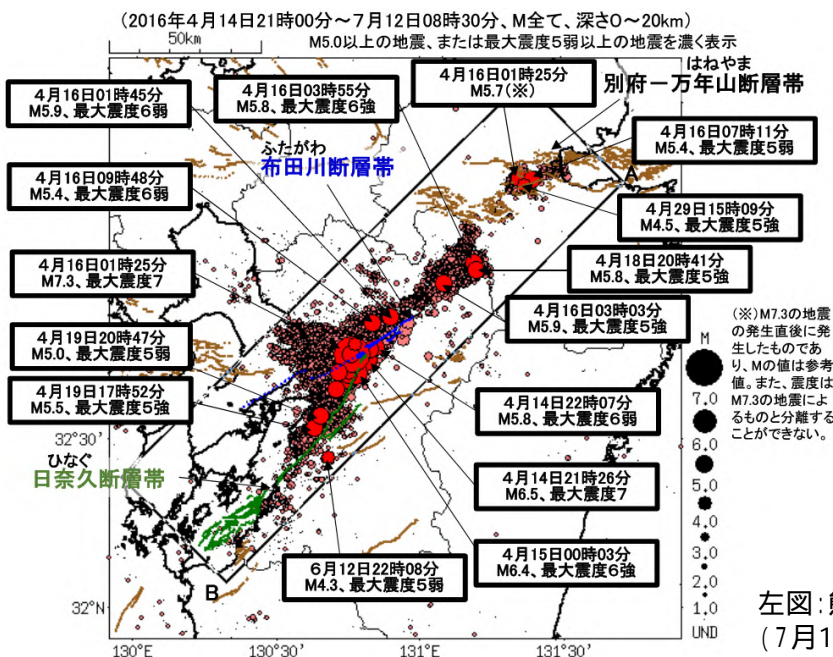
また、海のプレート内部に蓄積されたひずみにより、海のプレートを構成する岩盤中で断層運動が生じて地震が発生することもあります。これを沈み込むプレート内の地震といいます。

陸のプレート内にも、プレート運動に伴う間接的な力によってひずみが蓄えられ、そのひずみを解消するために日本列島の深さ 20km 程度までの地下で断層運動が生じて地震が発生します。陸のプレート内で規模の大きな断層運動が生じると地表付近にまでずれが現れます。

地震調査研究推進本部では、海溝やトラフのプレート境界やその付近で発生する地震を「海溝型地震」、陸のプレートの浅い部分で発生する地震を「陸域の浅い地震」と呼んでいます。

(地震調査研究推進本部事務局(地震本部)「地震がわかる!」より引用)

## 平成28年(2016年)熊本地震



熊本地震は、陸域の浅い場所で発生しました。震源域付近には、日奈久断層帯や布田川断層帯などが存在しています。

地震活動は減衰しつつも続いており、4月14日の地震以降、7月12日10時までに、震度1以上を観測する地震が1,879回発生しています。

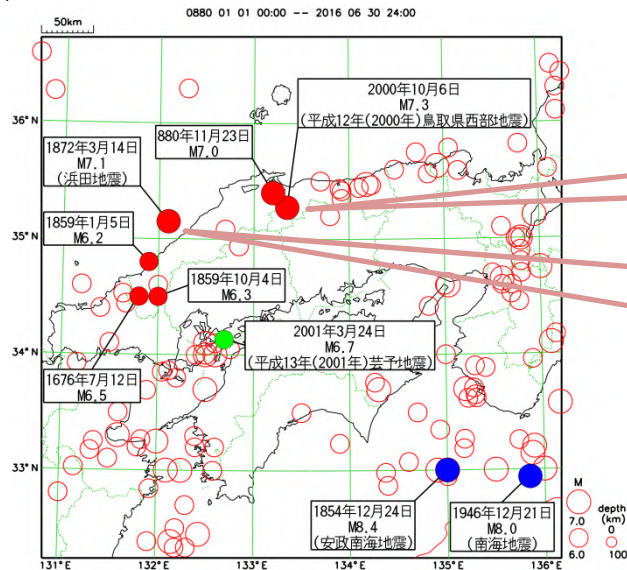
また、一連の地震より、死者81人、負傷者1,816人、住家全壊8,336棟などの被害が発生しました(7月15日18時30分現在、総務省消防庁による)。

左図: 熊本県から大分県にかけての地震活動の状況(7月12日まで)

## 島根県に被害を及ぼした主な地震

### 震央分布図

期間：880年1月～2016年6月  
(M6.0以上、深さ100km以浅)



島根県に被害をもたらした主な地震に着色  
陸域の浅い地震  
安芸灘周辺のやや深い地震(プレート内)  
南海トラフの地震 (プレート間)

**平成12年(2000年)鳥取県西部地震**  
負傷者11人、住家全壊34棟。

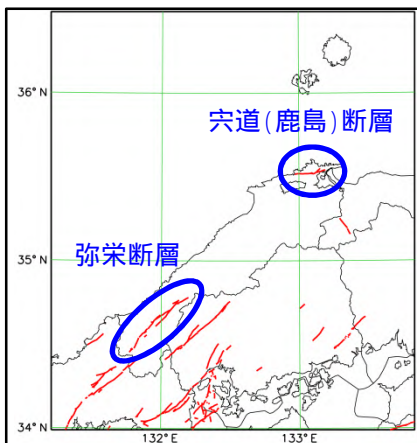
**浜田地震**  
死者551人、負傷者582人、家屋全壊4,506棟、  
家屋焼失230棟。  
海岸で海水の変動あり。

(被害状況:「日本の地震活動-被害地震から見た地域別の特徴-」より引用)

## 日頃の備えが重要

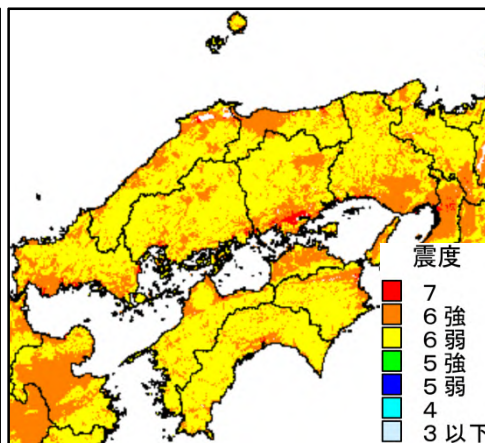
活断層では、地震が繰り返し発生しています。活断層の位置や活動履歴、長期評価等は、地震調査研究推進本部のHPをご覧ください。

([http://www.jishin.go.jp/regional\\_seismicity/rs\\_chugoku-shikoku/p32\\_shimane/](http://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_chugoku-shikoku/p32_shimane/))



### 島根県周辺の活断層

図中の赤線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す



### 揺れやすさマップ

モーメントマグニチュード(Mw)6.8の震源を想定した場合の震度分布  
内閣府「首都直下地震の被害想定と対策について」(平成25年12月)より

すべての活断層の存在が判明しているわけではなく、活断層でしか地震が発生しないというわけではないことに留意が必要です。

日本は地震国であり、マグニチュード(M)6クラス程度の地震は、日本のどの場所でも(活断層の有無に関係なく)起こる可能性があり、その直上では震度6弱以上の強い揺れが発生する場合があります。  
(左図揺れやすさマップ参照)

「平成28年(2016年)熊本地震」や「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」等のように震源が陸域で浅い場合には、海溝型の巨大地震に比べて地震の規模が小さくても、断層に沿って住宅や構造物、ライフライン等が大きく破壊され、甚大な被害が発生することがあります。

**家具の固定、防災訓練への参加等、日頃からの備えが重要です。**